

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 10号 (NO18)

2011年10月10日(土)発行

【農暦】味覚の秋！好物を味わえた。

○木犀の強い香りがして来た。好きな香りである。秋を実感する。少し前まで夏の気温だった。衣替えの実感がないが半袖だと肌寒い日もある。日の暮れるのが早い。薩摩芋と里芋を試し掘りした。植えたのが遅い薩摩芋は細いので今回は収穫を止めた。里芋は十分育っていた。里芋、柿は大の好物である。天高く馬肥える秋と云うが、里芋、柿と新米が頂ければ大満足である。今年田圃を止めてしまったので収穫祭もなく、新米はオアヅケのまま寂しいと思っていたら、ご近所のSさんとFさんから賞味してと、新米を届けて頂いた。Sさんには薩摩芋も頂いた。柿は苗で植えた木が今年初めて実った。こんな事で計らずも、好物の味覚の秋を味わえた。9日は旧暦の寒露で、冷たい露の結ぶ時季である。秋もいよいよ本番。菊の花が咲き始め、山の木々の葉は紅葉の準備に入る。稲刈りもそろそろ終わる時期であると云う。これからも、味覚だけでなく、いろいろな秋を堪能出来たらと思っている。

○台風12号に続いて15号が日本を直撃した。21日に関東を縦断した。台風前から笠間に滞在して風で飛ぶようなものをハウス、小屋、物置、家の中に入れるなど台風対策をした。台風の被害のニュースでその激しさを伝えていたが、ここでも、樹木が倒れるなど風はかなりなものであった。栗の木が1本倒れ萩や庭木も枝折れなど大きなダメージを受けた。栗の木はそのままである。アピオス、トマト、のアルミ支柱が倒れたため解体などする。サザンカの鉢



が壊れ植えかえなどと片付けはいろいろ大変であった。台風の後雨が残る屋外作業の無理な時もあったがハウス内の草取り、整理をするなどやり残しの片付け作業もあり連日続けたが、また残っている。近くの”りんご園”は可なりダメージを受けていた。丹精を込めた作業を続けているのを見ているだけに収穫直前の被災は気の毒である。私の被害などとは桁が違うだろう

＜りんご園(Fさんの)＞真っ赤に色づいたりんご。倒れた木も多いが健在のりんごが収穫を待っている。ラベル作成のため撮影に4日。

と思う。震災は更に桁違いになると思うと自然と折り合いを付ける事は大変なことである。○後ろ向きの作業は必要以上に疲れる様な気がする。一休みしたところで、大根、白菜の種を買いに行った。既に遅い上に、土が水を含んでおり播種の機会を更に逸してしまう。ご近所 Su さんから大根はぎりぎり間に合うが白菜はと云われた。大根は播種し白菜は苗の購入に切り替えて定植した。白菜の苗が虫にやられてしまったことが悔やまれた。霜まで OK と書かれたキュウリも発育しないままである。後追いの作業は？失敗が多い。地元では農産物は貰うことばかりで差し上げることはほとんどない。嬉しくもあり寂しくもある。寒露の季節になって“汗だく”から開放されたが何となく寂しくもある。良寛にあやかっの萩（9月号）の花は愛でることが叶わなかった。生き方だけはいつまでも前向きでありたいものである。今は大根と白菜の発育を心配している。

【楽農】後追いの作業が多い

<ハウス> ; 実を付けたトマトを残し整理した。

僅かではしかないが“マイ食卓”で頂いた。

<畑 A> ; 大根の播種、白菜の定植。

アピオス、トマト、のアルミ支柱の解体。畑の周辺の草処理。

<畑 B> ; 草の焼却。黒豆の枝豆、里芋の収穫。

ヤーコンの生育が悪い（1ヶ月近い定植遅れが原因か？）

* グリーゼムとしてニンニクの植込み。

* ここ1-2ヶ月は草取りばかりである。

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部（9月16日）次回は10月15日

・今回も草取り作業、ニンニク栽培を決めマルチ設定まで。

*都合で1日繰り上げ実施。いきいき市（18日）は今回も中止。

○エコピア柏の生ゴミ堆肥化講座（9月24日）

恒例の秋の講座を柏リボン館で行う。男性参加増の

傾向が続いている。同じ内容の講座を続けており受講者の評価が気になるがアンケートで好評価である。これから如何に進めるか会で話をしている。

【つぶやき=Tweet】「大地を守る会」の全面広告

○「大地を守る会」が27日の朝日新聞に全面広告を出していた。私はブログで知った。保管された新聞の中から取り出して見た。この広告は「子どもたちへの安心野菜セット2180円」の宣伝なのだが、それに続いて「放射能検査済。北海道・甲信越・愛知以西の穫れたて野菜のつめ合せ」とあった。ブログは「暮らしの実験室」が書かれたものである。ブログには全く同感出来るものであったので引用させて頂き紹介したい。以下引用する。“これはスナオに読めば、「関東・東北の野菜にはリスクがあり、子どもたちに与



<柏リボン館の生ゴミ堆肥化講座>
終始真剣で和やかな雰囲気の中で
行われた。

えてはいけない」ということだ。それ以外読みようがない。—略略— 個人の選択として、「心配だから西へ引越そう」とか「関東・東北の野菜はやめよう」ということはあるだろう。放射能のリスクは誰も確たる事を言えないので心配し出したらキリがない。また安全というのは事実問題である以上に観念の問題だからだ。だからそういう人もいると思う。やめろとは言えない。しかしそれはあくまで個人の、ギリギリの選択としてだ。行政であれ企業であれ公益、ないし公共にかかわる立場の人間が言う事ではない。略 例えば今、関西方面のJAなり会社なりが「関西の野菜は安全・安心です」とキャンペーンを張って野菜の売り上げを伸ばそうとしたら相当ヒンシュクを買うだろう。—略略—「ウチのはこんなに低いから安心です」という言い方をしたとすると、それは即「福島方面の野菜はもっと高いから安全ではありません」というメッセージとして裏返ってしまう。略 数値は文脈次第でどんな意味にもなりうるからだ。だから言い淀む。公表したくないのではなくて、どういう言い方をしたらいいのか分からないのである。—略略—汚染が高いところは流通をストップし、行政的にケアするしかない。そういう時にリスクゼロの甘いエサを投げて魚を釣ってはいけない。略 安全原理主義が如きものに組するのではなく、—略— カットすると真意が伝わらないと心配でつい長い引用になってしまった。(ゴシックは筆者)



＜筑波山散策9日＞山麓では万葉の相聞歌がうたわれたと云う。セキレイ石もそれに因んだものか？

○放射能については家族でも意見が割れる。発言は慎重にしても上手く伝わらない。発信しないで良いわけではないが口害を避けるため多くを云わない様にしている。ブログの筆者には首肯ばかりである。大地を守る会の広告にも違った意見を持つ人もいるかも知れないが、いつも利得主義の世相を非難している私にとって一番嫌な行為である。これからの農業をリードする旗手の1つとだけ思っていただけに『大地を守る会』への失望は大きい。やるべきことは、出来るだけ知見を共有して“如何に問題を解決していくか”であると思う。

*寒露の9日に足慣らしはじめに筑波山の散策をした。紅葉には早いが多くの人が出ている。山ガールの素敵な衣裳にも出会った。孫娘に付いて行くのに息切れした。筑波山の自然のあれこれを見聞きし“ガマの油”だけではないいろいろな発見があった。

*笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>